

GUNDAM.INFO Search
www.gundam.info
www.bandai-hobby.net/
インターネット上での商品情報は、必ずしも最新情報ではありません。実際の店舗情報には、必ずしも一致しません。また、本ウェブサイトは、お客様のアクセス方法と接続に、本ウェブサイトは、お客様の責任において運営されています。



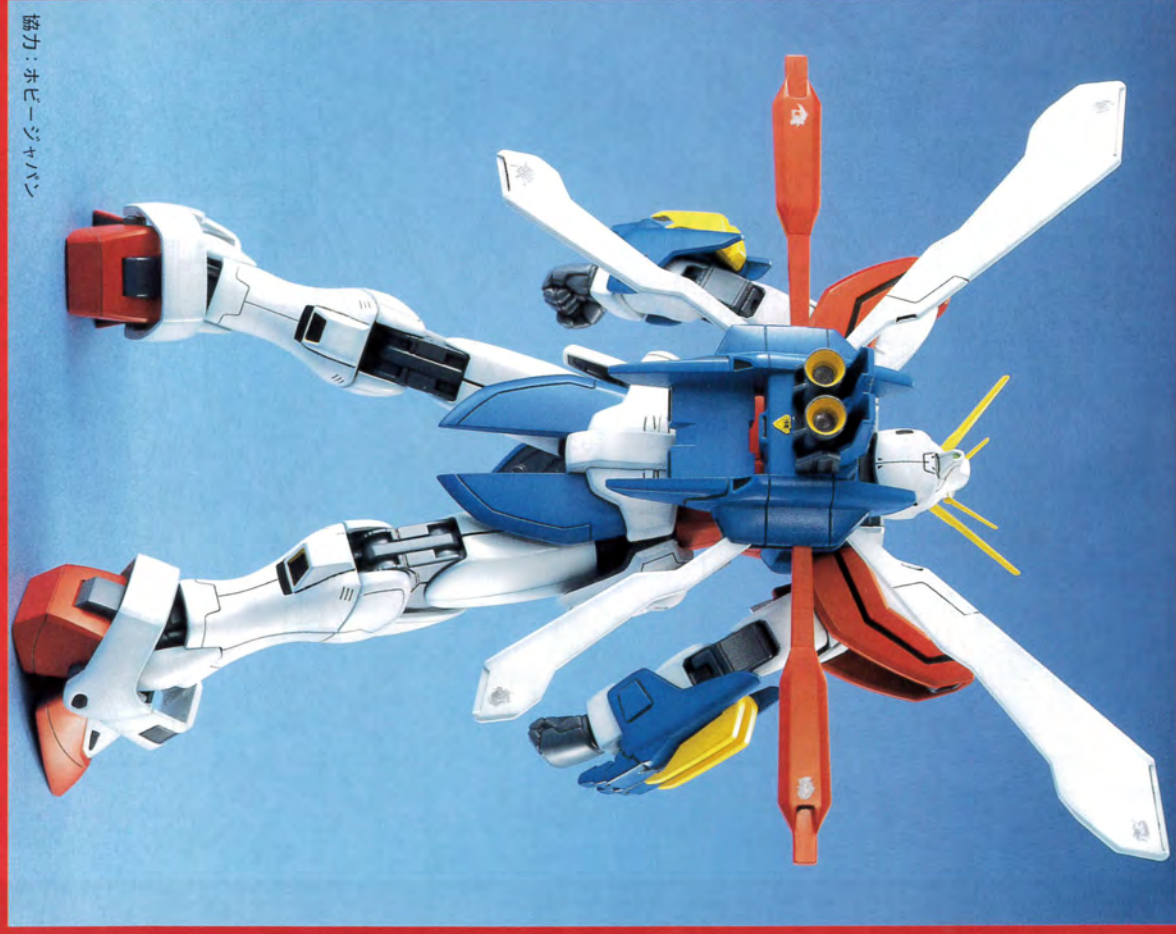
MOBILE FIGHTER
GF13-017NJII

G GUNDAM

NEO JAPAN
MOBILE FIGHTER



MG
MASTER GRADE
FIGHTING ACTION
ネオジャパン モビルファイター
Gガンダム
GF13-017NJII
1/100スケール
マスターグレードモデル



協力：ホビージャパン

G GUNDAM

NEO JAPAN MOBILE FIGHTER GF13-017NJII G GUNDAM

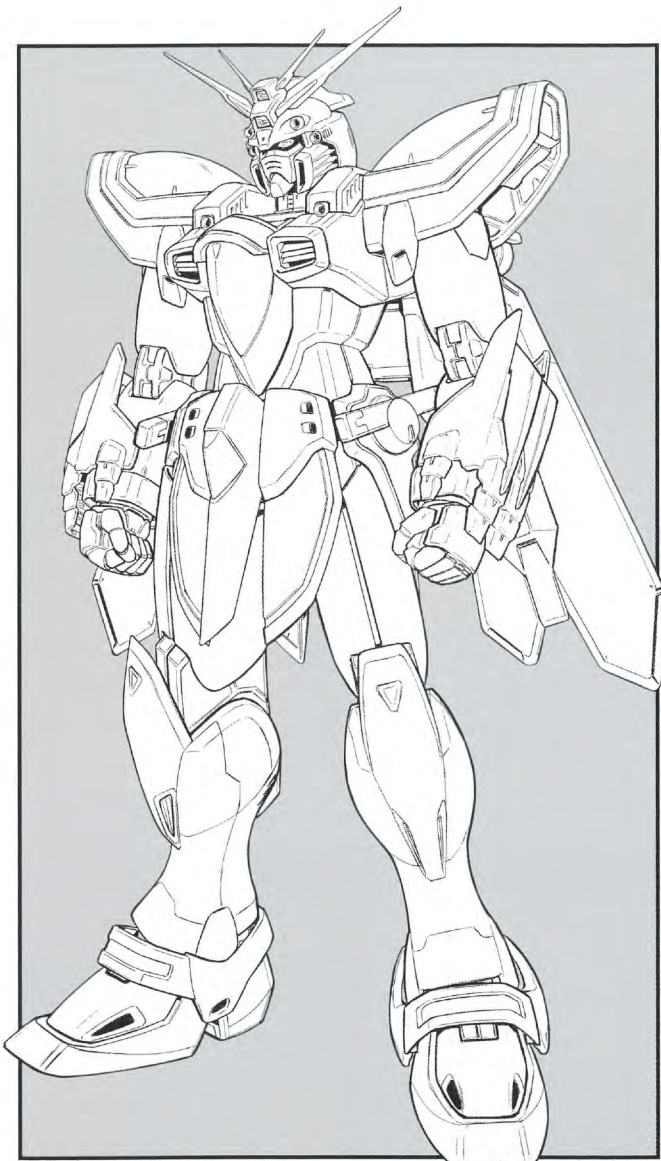


ネオジャパン モビルファイター
GF13-017NJII
Gガンダム
1/100スケール
マスターグレードモデル

BANDAI SPIRITS 2001 MADE IN JAPAN



5062836



GF13-017NJII GUNDAM

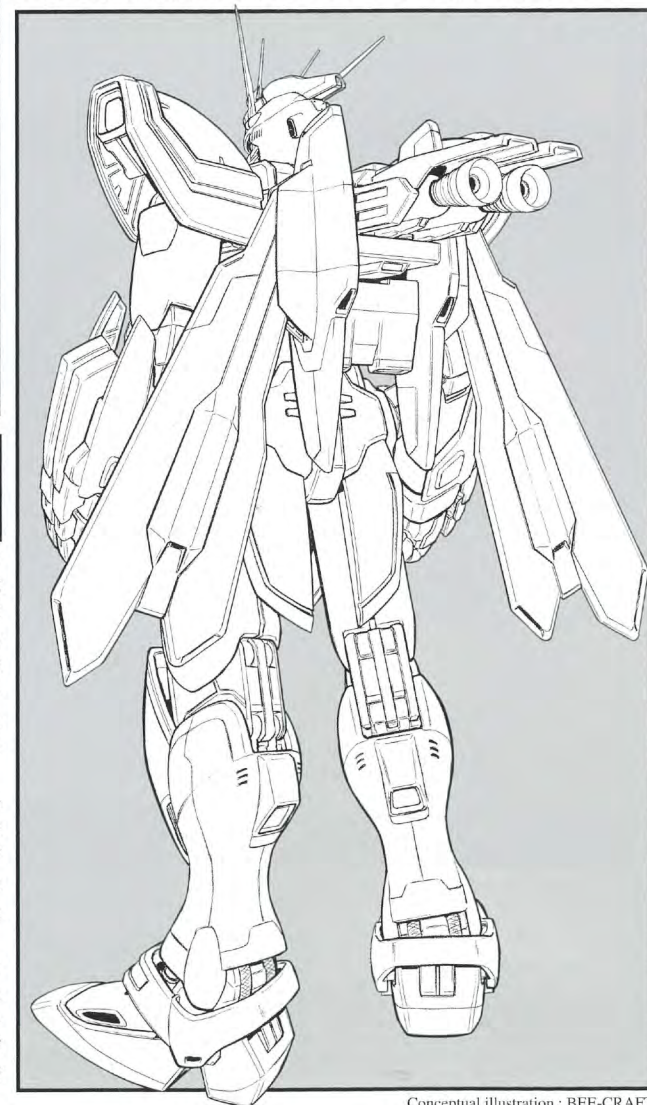
GF13-017NJII「ゴッドガンダムは、11カ月に及ぶサバイバルレブンを戦い抜き、満身創痍となったGF13-017NJ シャイニングガンダムに代わる機体として開発されたMF（モビルファイター）である。ネオイタリアに降下して以降、激戦に続く激戦を繰り返して、「明鏡止水（邪念のない、落ち着いた静かな心境～曇りのない鏡と静かに澄んだ水の意）」の境地に達したGF（ガンダムファイター）ドモン・カッシュ。シャイニングガンダムのスーパーモードを、“怒り”の感情を必要とせず、任意に発動できるようになったドモンにとって、シャイニングガンダムの最強モードはすでに最強足り得ず、機体性能そのものが、GFの“器”についていけなくなってしまっていた。

ネオジャパンのガンダムファイト委員会は、決勝大会に際し、サバイバルレブンのデータを移植した機体に限り、一度だけ乗り換えることが可能であるとレギュレーションに則り、かねてより開発していたゴッドガンダム、すなわちGガンダムをドモンのもとに届け、ドモンもまた、その機体を見事に乗りこなし、ギアナ高地から決勝戦会場のネオホンコンに辿り着いたのである。

シャイニングガンダムは、搭乗者の身体機能のみならず、感情をピックアップすることで機体性能のポテンシャルを圧倒的に改善する事を可能としていたが、“怒り”という、いわば“負”の感情をスーパーモード発動のトリガーとしていたため、純粋な“戦い”においてはある意味で阻害要因となっていた。ガンダムファイトは、戦闘とはいっても非常に競技性が高い“作られた”戦いで

あり、GF同士が“互いの拳と拳で語り合う”という、ある意味で通常のスポーツよりも純粋な魂の研鑽の場でもある。GF同士が純粋に敵対心をぶつけ合う事はほとんどないと言っていいだろう。無論例外はあるだろうが、国家間の主義主張や体制、主観を超越した“戦いそのもの”こそがGFの本来の目的なのである。

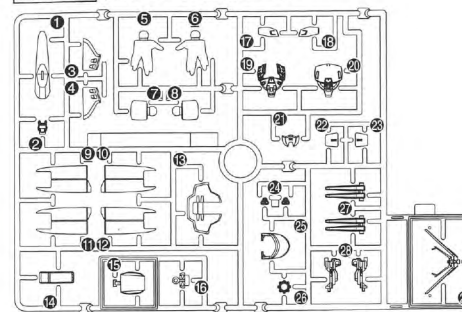
Gガンダムは、アルティメットガンダムと並行して開発されていたライジングガンダム、シャイニングガンダムとは異なり、ミカムラ博士が、ほぼ独力で、ドモン・カッシュのためだけに開発したMFである。つまり、彼の11カ月に及ぶ戦いを存分に吟味して開発された機体であり、ドモンの“格闘者”としてのありように相応しく、また、存分にその力を発揮できるようにチューンされた機体だということができるだろう。その意味で、ミカムラ博士の真意が何処にあるとも、ドモンのためにGガンダムを開発したことは最大限に評価されて然るべきだろう。無論、シャイニングガンダムで有効だった機能はさらに洗練された形で反映されている。シャイニングフィンガーはより強力なゴッドフィンガーへと改良され、怒りの感情が頂点に達したときのみ発動していたスーパーモードは、より洗練されたハイパーモードへと進化を遂げた。ハイパーモードによって発生するフィールドは、機体全体にマグネットコーティング効果をもたらす、機体の運動性と機動性をともに向上させ、更に各々のフィールド発生装置は“機体の気脈”までも活性化させる効果があるという。明鏡止水の境地に達したドモンにとって、より理想的な“戦いの場”を生み出し、さらには、搭乗者の五感のみならず、第六感、第七感をも開眼させるという、まさに究極の“人機一体”の体現ともいえるべき機体なのである。無論、この機体が完成したのは、キング・オブ・ハートこと新シャッフル同盟の一員であるドモン・カッシュの技量によるところが大きいのは当然ではあるが、古来、道具を用いるあらゆる競技において、その匠と術者、コンストラクターとドライバーの切磋琢磨と信頼関係こそが最重要であることは論を待たないだろう。



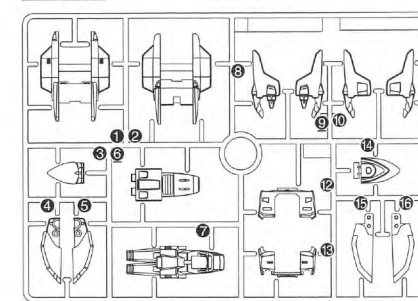
Conceptual illustration : BEE-CRAFT

パーツリスト

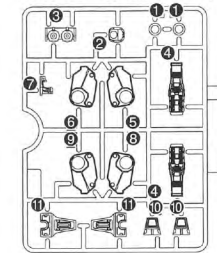
Aパーツ (スチロール樹脂: PS)



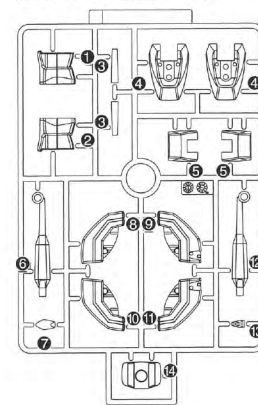
Bパーツ (スチロール樹脂: PS)



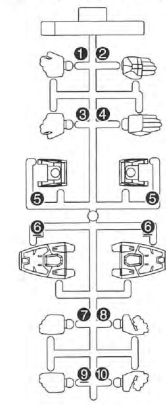
Cパーツ (スチロール樹脂: PS)



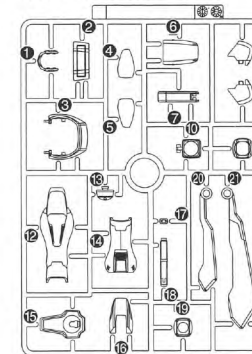
Dパーツ (スチロール樹脂: PS)



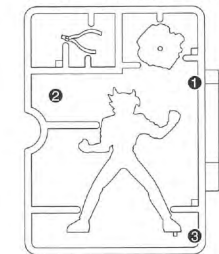
Eパーツ (合成ゴム: TPE)



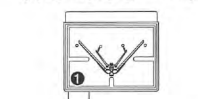
Fパーツ (x2) (スチロール樹脂: PS)



I1パーツ (スチロール樹脂: PS)



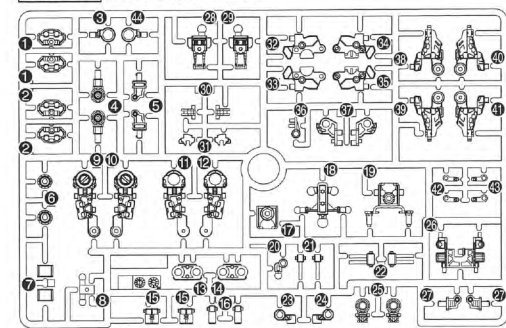
Hパーツ (ポリエチレン: PE)



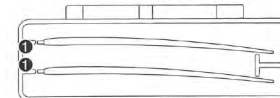
ジュエルシール (ポリウレタン: PUR)



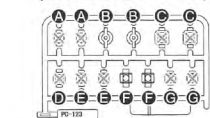
Gパーツ (ABS樹脂: ABS)



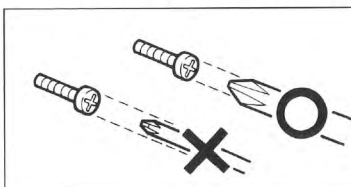
SB4パーツ (スチロール樹脂: PS)



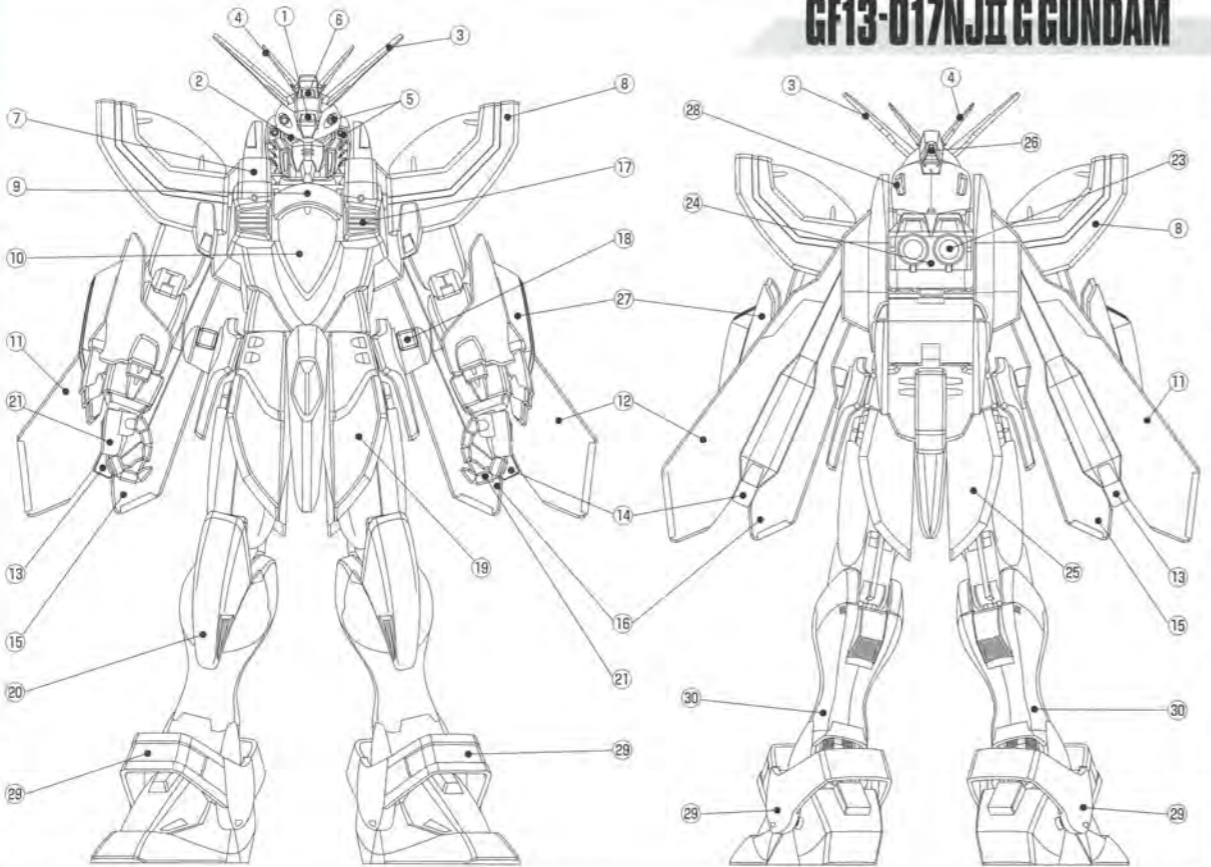
PC-123 (ポリエチレン: PE)



- カラーシール…………… 1枚
- マーキングシール…………… 1枚
- ビスTP2×5座付…………… 6個+1個
- ビスM2×4…………… 2個+1個
- ビスTP2×5…………… 4個+1個
- ビスM2.6×6…………… 1個+1個
- ナット(小)…………… 2個+1個
- ナット(大)…………… 1個+1個

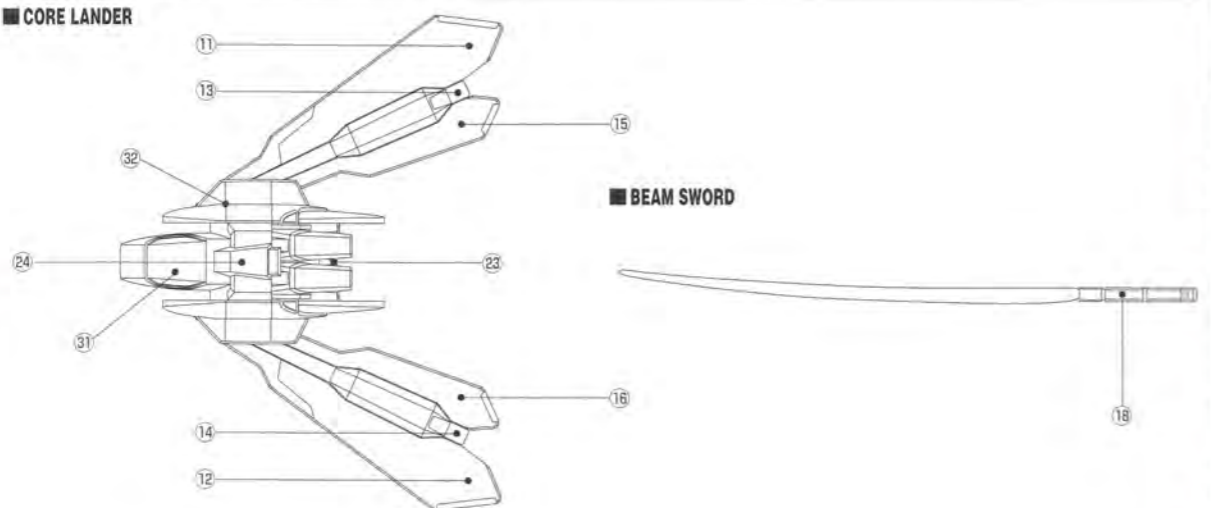


GF13-017NJII G GUNDAM



- | | | | |
|------------------|-------------------|-----------------|------------------|
| ①メインカメラ | ⑨コクピットハッチ | ⑰インテーク | ⑳リアアーマー |
| ②デュアルカメラ | ⑩エネルギーマルチプライヤーゲート | ⑱ビーム・ソード | ㉑リアセンサー |
| ③多目的ブレードアンテナ | ⑪エネルギー発生装置“幻” | ㉒フロントアーマー | ㉒プロテクタークロウ |
| ④フィールドリダクションアンテナ | ⑫エネルギー発生装置“夢” | ㉓ニージョイントアーマー | ㉓ダクト |
| ⑤60mmバルカン | ⑬エネルギー発生装置“影” | ㉔マニピュレーター | ㉔アングルアーマー |
| ⑥フィールドリダクションカメラ | ⑭エネルギー発生装置“泡” | ㉕ゴッドフィンガープロテクター | ㉕レッグスラスターカバー |
| ⑦マシン・キャノン | ⑮エネルギー発生装置“電” | ㉖メインノズル | ㉖コクピットハッチ |
| ⑧ショルダーアーマー | ⑯エネルギー発生装置“露” | ㉗コア・ランダー | ㉗ティルトッドウィングバインダー |

注) 本機は、第13回ガンダムファイトの予選サバイバルレレブ終了間際に投入され、データをコンバートした後、決勝大会会場であるネオホンコンに上陸。バトルロイヤルにおいて全勝優勝を収めたのみならず、直後に勃発したデビルガンダム災害の沈静化に多大の貢献を成した。



注意

お買い上げのお客様へ 必ずお読みください。

- 本商品の対象年齢は15才以上です。対象年齢未満のお子様には絶対に与えないでください。
- 小さな部品がありますので、小さなお子様が悪く飲み込まないように注意してください。窒息などの危険があります。
- ビニール袋を頭からかぶったり、顔を覆ったりしないでください。窒息する恐れがあります。
- 尖った部分や鋭い部分がありますので、取り扱いや保管場所に注意してください。思わぬケガをする恐れがあります。

※このキットの組み立てには+（プラス）ドライバーを使いますので別にご用意ください。

《組み立てる時の注意》

- 組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
- 部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。
- 部品の加工の際の刃物、工具、塗料、接着剤などのご使用にあたっては、それぞれの取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。
- 塗装には、より安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。
- 尖った先端や薄い縁端部に触れながらの組み立てには十分ご注意ください。
- ABS部分への塗装は破損する恐れがありますので、塗装はおすすめできません。

接着をするところの線	シールの番号	テカールの番号	反対側に取り付けるパーツ	両側に同じパーツを取り付ける	向きに注意して取り付ける	ビスの締めすぎに注意
切り取る場所	部品を数値の個数作ります	先に組み立てます	後に組み立てます	数値に合わせて回転させます	どちらかを選んで取り付ける	反対側も同じように動かします

1 G3 (⚠) G25 F1 G4

ビス TP2×5座付

2 G27 G1 G2 G5

ビス M2×4 ナット(小)

3 D10 D11 P.C.F

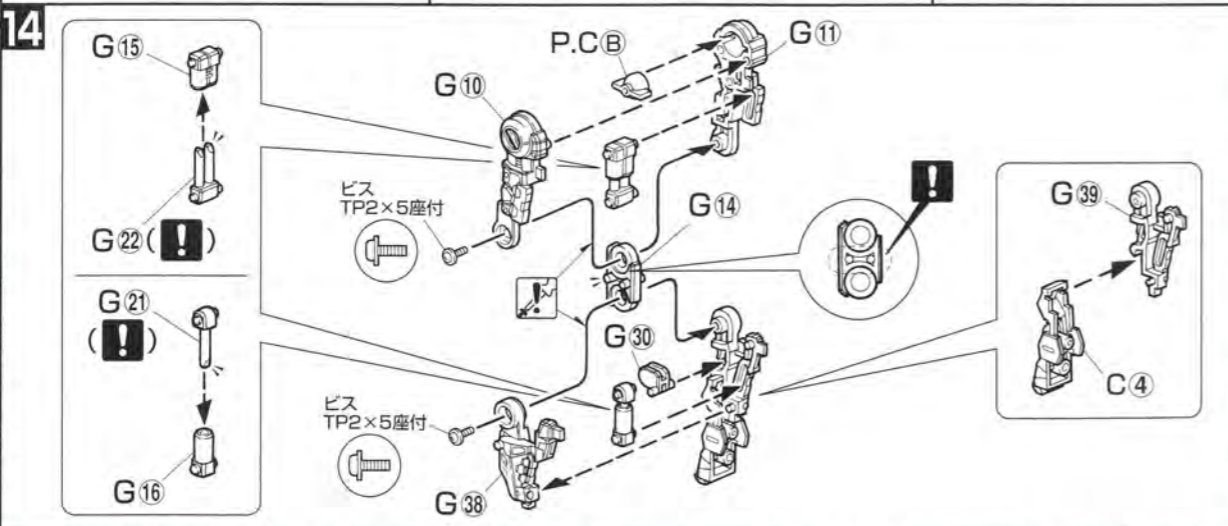
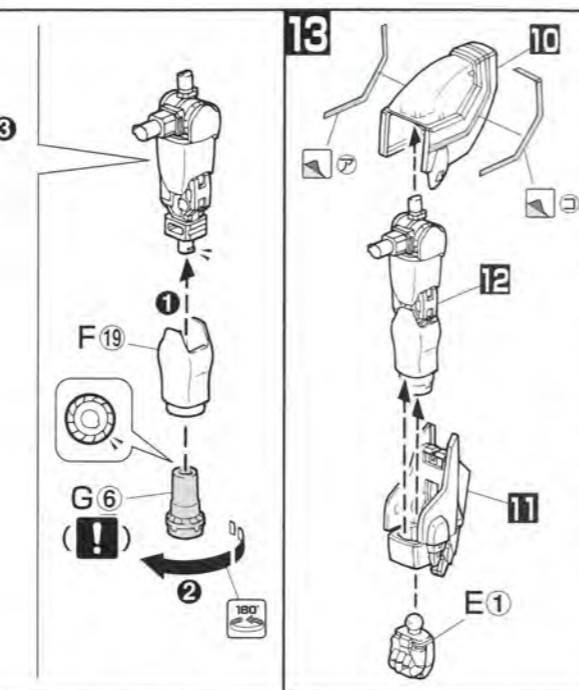
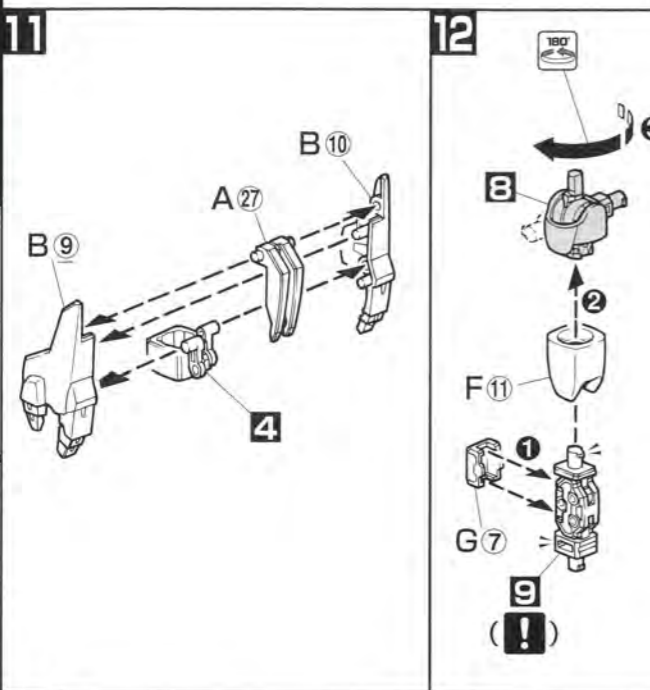
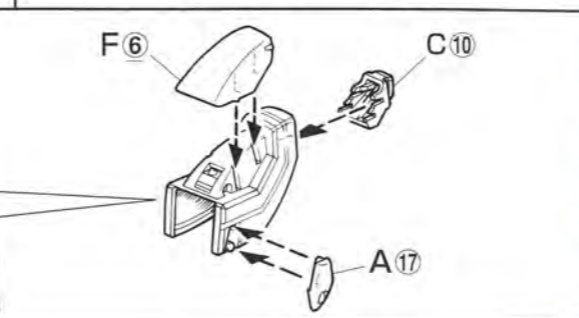
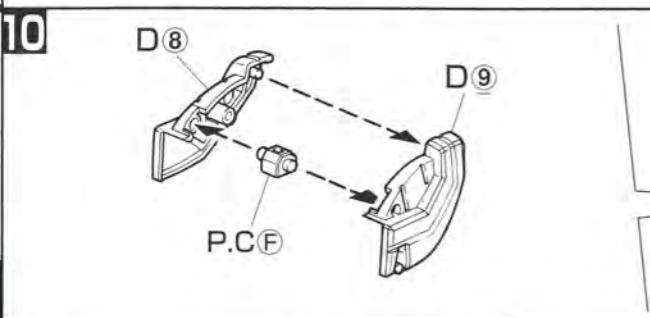
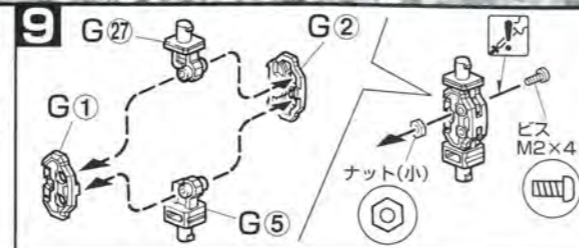
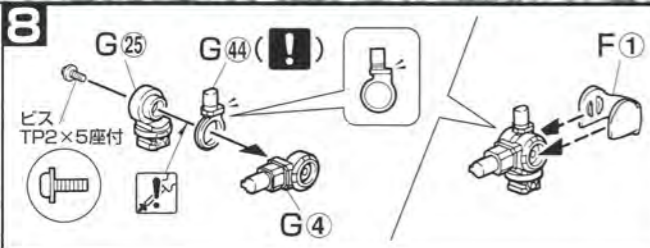
4 C10 F6 A18 G43 G42

×2

5 B11 A27 B8

6 F11 G7 F19 G6

7 E3



GUNDAM FIGHT INTERNATIONAL TREATY

- 第一条 頭部を破壊されたものは失格となる。(補足:試合中の過失によるGFの殺傷は認められる)
 第二条 相手のコックピットを破壊してはならない。
 第三条 破壊されたのが頭部以外であれば、何度でも修復し、決勝リーグを目指すことができる。
 第四条 GFはおのれのガンダムを守り抜かなければならない。
 第五条 対一の戦いが原則である。
 第六条 国家の代表であるガンダムファイターは、その威信と名誉を汚してはならない。
 第七条 地球がリングだ!(補足:ガンダムファイトによって地球上の建築物を破壊しても罪に問われることはない)。

ガンダムファイトはF.C.(未来世紀)世界において国際条約として制定されており、この条約に批准する全ての国家に参加の権利と履行の義務が発生する。

4年に一度、各国家は自国の代表たるMF(モビルファイター=格闘などに特化されたガンダムタイプのMS)およびGF(ガンダムファイター=MFの搭乗者たる格闘者あるいは技能者)を建造/選出し、主催国家によるレギュレーションに則ってガンダムファイトが運営される。そして、勝利したガンダムが所属する国家によって、その後の4年間地球圏の統治および運営が行われるのである。

すなわちガンダムファイトとは、戦争によらない世界支配のシステムであり、しかも、4年に一度、どんな弱小国であろうと、どんな超大国であろうと、世界に覇権を唱える権利を手に入れられる可能性がある究極的に公平な戦争抑止効果をも持つ汎地球規模の大イベントでもある。

それでは、ガンダムファイト! レディ〜、ゴォーッ!!

MOBILE TRACE SYSTEM

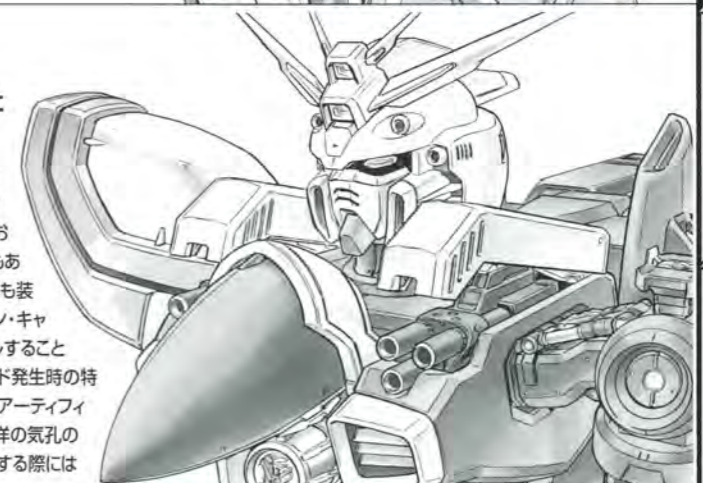
MFのコックピットには、標準装備として「バーチャルコックピット」と「ファイティングスーツ」の着用を前提とする「モビルトレースシステム」の搭載が義務付けられている。

このシステムは全機に共通で、F.C.08年に初めて開催された第一回ガンダムファイトから基本的にほとんど変わっていない、ガンダムファイトの理念を体現するシステムである。ガンダムファイトの理念とは「人機一体」であり、ガンダムとGFの一体化が求められている。そのため、MFにはGFの挙動を正確に反映する機能があり、逆に、MFが受けるダメージをGFに伝える機能も存在する。この原則に違反しない限り、各種のセンサーや武装のトリガー機構などの追加は任意で可能とされている。特にGガンダムが「爆熱ゴッドフィンガー」時に使用するプロテクターの形状などは、第12回大会に出場し、立て続けに敵を瞬時に気絶させて上位に食い込んだネオアルバニアのヴァルカン柔術の使い手、スフォルク・レオニードの必殺技「イディーク(彼らの言葉で「長寿と繁栄」を意味する)グリップ」の効果をミカムラ博士が独自に解析し、リキッドメタルコーティングによるシャイニングフィンガーを、さらに強化する技法のひとつとしている。これは、Gガンダム背部のフィールド発生装置とも密接にリンクしているのである。そうすることで、シャイニングフィンガーを上回るパワーと熱量を獲得し、使いこなすことが可能となったのである。

HEAD AREA

いわゆるMF「ガンダム」の機体制御システムのほとんどは頭部に集約されているため、ほぼ共通のウィークポイントとなっている。

レギュレーションでもMFの頭部損壊は、敗北の条件のひとつになっている。ただし、高度なセンサーや演算装置を高密度にコンポーネントされた「工業力」そのものを見せつける部位でもあり、逆に、構造や意匠において、それだけ各国の技術力やGFの技量が問われる最重要ユニットでもある。特にGガンダムは、頭部アンテナなど、ハイパーモード時専用のものも装備されているほか、機体制御はもとより、側頭部のバルカンや肩部マシン・キャノンのトリガー操作や射出間隔の調整までピックアップし、コントロールすることが可能である。さらに、ハイパーモード発動の判定を行ったり、フィールド発生時の特殊力場を管制、制御したり、胸部のマルチブライザー発動に伴うAAG(アーティフィシャル・オーラ・ジェネレーター=人工気力発生装置)を駆動制御し、東洋の気孔のように「気」を練る機能も持たされているのである。無論、ドモンが使用する際にはキング・オブ・ハートの紋章が浮かび上がることはいうまでもない。



Mechanism illustration : BEE-CRAFT

GUNDAM FIGHT, READY, GO!

A DVANCED SHINING

第13回ガンダムファイトの決勝大会まであとわずか。ギアナの地に残っていた他国のGFたちを脱出させたドモンは、ひとり残って東方不敗とデビルガンダムに立ち向かう。しかし、怒りのスーパーモードでは東方不敗に勝てない。苦戦するドモン。そこにネオドイツのGFシュバルツが現れ、自ら盾となってドモンを庇う。その決死の行動に教えられたドモンは、ついに明鏡止水の境地を会得。真のスーパーモード発動に成功し、驚異的なパワーで東方不敗を一蹴すると、余勢を駆ってシャイニングフィンガーでデビルガンダムを焼き尽くした。そこに、ネオジャパンのコロニーから最新鋭機のゴッドガンダムがカプセルで送られてきた。だが、すでにレインはネオホンコンの地にあり、このままでは起動することすらままならない。そこに再び東方不敗が現れドモンに襲いかかる。「邪魔するなッ、師匠オオッ!!」「だからア、お前はアホなのだアッ!!」一方、ネオホンコンでドモンを待つレインは、ミカムラ博士が開発した脳波通信機でドモンを探し出し、さらに、大破したシャイニングガンダムを遠隔操作してゴッドガンダムにデータを送り、起動させることに成功する!!果たしてドモンは決勝に間に合うのか!?

A NEW BLOW

東方不敗を退け、Gガンダムに乗り込んだドモンは、宇宙空間まで飛び上がり、監視衛星のビームロープの反動を利用してみんなが待つネオホンコンへと辿り着いた。ドモンの初戦の相手は、ウォンの陰謀により、今大会最強と噂されるネオギリシャのマーキロットに決定した。一方、用意された宿舎のホテルが肌に合わず街に出たドモンだったが、聞こえてくる評判はマーキロットの有利を言うばかりでドモンは面白くない。そこに偶然マーキロットと鉢合わせたドモンは、己の力を過信していたため打ちめされてしまう。翌日、ジャンク船で生活する老人ハン一家に助けられたドモンは、ハンのとえ話に勇気を得て試合に臨む。捨て身の覚悟で闘うドモンだったが、やはり苦戦する。だが、ひたすらチャンスを待っていたドモンは、一瞬の隙を突いて明鏡止水の境地を発揮し、新必殺技を撃つ。「俺のこの手が真ッく燃えるッ!、敵を倒せと輝き叫ぶッ! 爆熱ウツ、ゴッドオ、フィンガァー!!」マーキロットもまた、自らの慢心の前に敗れ去ったのだった。



DUEL OF THE MASTER ASIA

最後のシャッフルの同士、アルゴとの決着をつけたドモン。そんなさ中、アレンビーが何者かに誘拐されてしまった。手掛かりを求めて飛び出したドモンの前に東方不敗の愛馬、風雲再起が出現し、東方不敗のもとへと誘う。たちまち拳を交える両者だが、そこにウォンが操るガンダムヘッドが現れ、ふたりは瓦礫とともに地下通路に落ちてしまった。脱出のため一時休戦した二人は、荒廃し遺棄された地下街をさまよいつつ修行時代に思いを馳せていた。そして東方不敗は、問はず語りに、今も克服されていないドモンのウィークポイントと、世界の、さらには地球の現状を諭そうとしていた。そして、二人は力を合わせ、最期のビルを蹴り上げ、地上に踊り出る。そこに、無数のガンダムヘッドが待ち伏せていた! 「ドモンッ! 石破天驚拳、今こそ撃って見せろ!!」ガンダムヘッドがGガンダムに迫る! 「流派っ、東方不敗! 最終奥義!! 石破天驚オオ拳!!!」二人を付け狙っていたガンダムヘッドは一掃された。「……確かに伝授したぞ。この技ならば、ガンダムシュビーゲルとの闘いに後れをとることはあるまい!」それだけ言うと東方不敗は去り、最終決戦まで、その真意を明かすことはなかった……。



FIGHTING ACTION

内側に組み込まれたアクションフレームにより、Gガンダムの最大の特徴である大胆な格闘ポーズを実現。



コクピットとなるコア・ランダーは、キャノピー開閉に加え、変形してGガンダムのボディに装着可能。

胸のエネルギーマルチプライヤーは、ジュエルシールを使用。

両肩のマシン・キャノンはカバー開閉式。

レッグカバーは開閉式。内部スラスタを再現。

DETAIL

ACTION FRAME

PAINTING

※よりリアルに仕上げたい方は、下の基本色をご覧ください。

●このキットをよりリアルに塗装したい方は、GSクレオスより発売のガンダムカラー(MG「Gガンダム」用、その他カラーセット)をお使いください。
●ABS樹脂部分への塗装は破損する恐れがありますので、塗装はおすすめできません。

- 本体の塗装色:
ホワイト(100%)
ニュートラルグレー(少量)
またはガンダムカラーホワイト5
- 胸部等の塗装色:
コバルトブルー(80%)
インディブルー(10%)
またはガンダムカラーブルー17
- 胸部ダクト等の塗装色:
イエロー(95%)
+オレンジイエロー(5%)
- 肩、腰部等の塗装色:
モンザレット(100%)
またはガンダムカラーレッド1
- 関節等の塗装色:
ニュートラルグレー(60%)
+ミッドナイトブルー(40%)
- 目、センサーの塗装色:
蛍光グリーン(100%)
- コア・ランダーのキャノピーの塗装色:
クリアグリーン(100%)



DOMON KASSHU



ネオジャパン代表のガンダムファイター、ドモン・カッシュを躍動感あふれるポーズでフィギュア化。

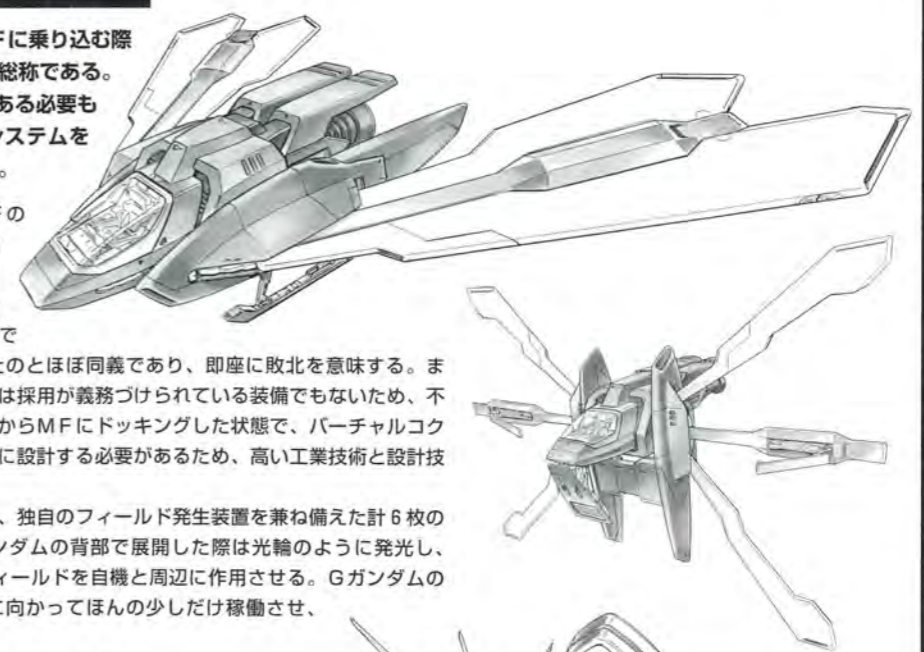
FRONT VIEW

CORE LANDER

コア・ランダーは、GFがMFに乗り込む際などに使用する小型ビークルの総称である。このメカ自体は、特に“車両”である必要も規制もなく、ほとんどが浮遊システムを持つフロートカーとなっている。

ガンダムファイト期間中、GFの移動手段となり、また、非常時にはMFからの脱出に使用することも可能である。ただし、ガンダムファイトの最中にコア・ランダーで脱出することは、機体を放棄したのと同義であり、即座に敗北を意味する。また、このコア・ランダーそのものは採用が義務づけられている装備でもないため、不採用の機体も多い。さらに、背部からMFにドッキングした状態で、バーチャルコックピットシステムと干渉しないように設計する必要があるため、高い工業技術と設計技量が必要とされるのである。

Gガンダムのコア・ランダーは、独自のフィールド発生装置を兼ね備えた計6枚のフィンが装備されており、Gガンダムの背部で展開した際は光輪のように発光し、“場”に対しても作用する磁気フィールドを自機と周辺に作用させる。Gガンダムのコア・ランダーは、これを下面に向かってほんの少しだけ稼働させ、地面から浮遊しているのだ。



BEAM SWORD

超素材ガンダリウム合金製の装甲であっても、充分な出力と技能によって断ち切ることが可能である。

同様の装備をシャイニングガンダムは左腰部に二本差して装備していたが、Gガンダムは両腰部に一本ずつ装備している。さらに、高出力化されているため、特に“ゴッドスラッシュ”と呼ばれている。無論、爆熱ゴッドフィンガーと同時に使うことも不可能ではないが、シャイニングガンダムのシャイニングフィンガーソードに数倍する耐熱、耐



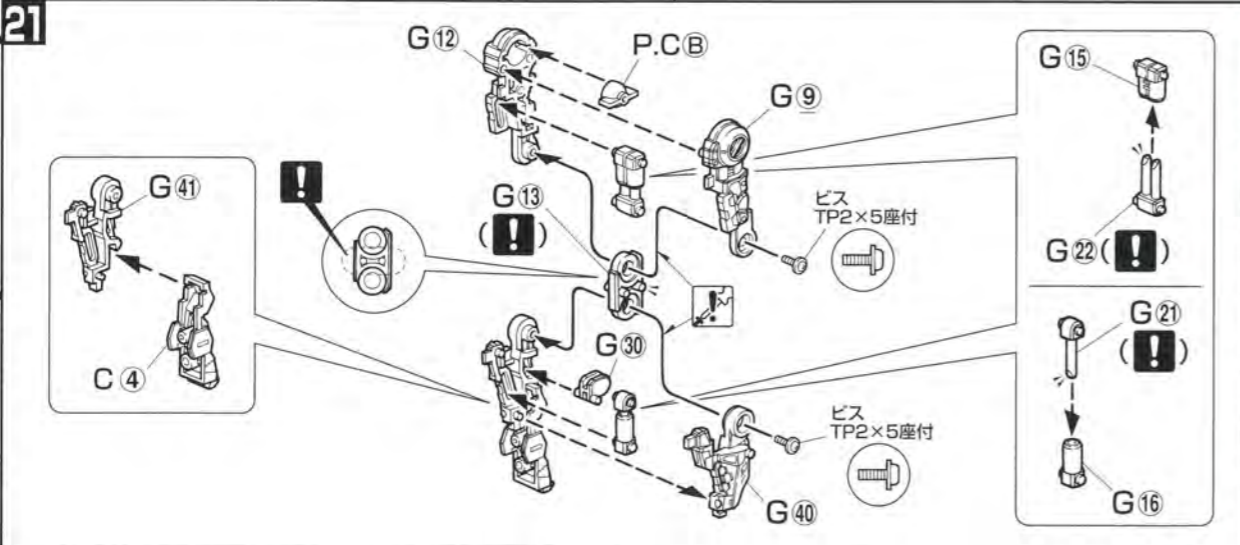
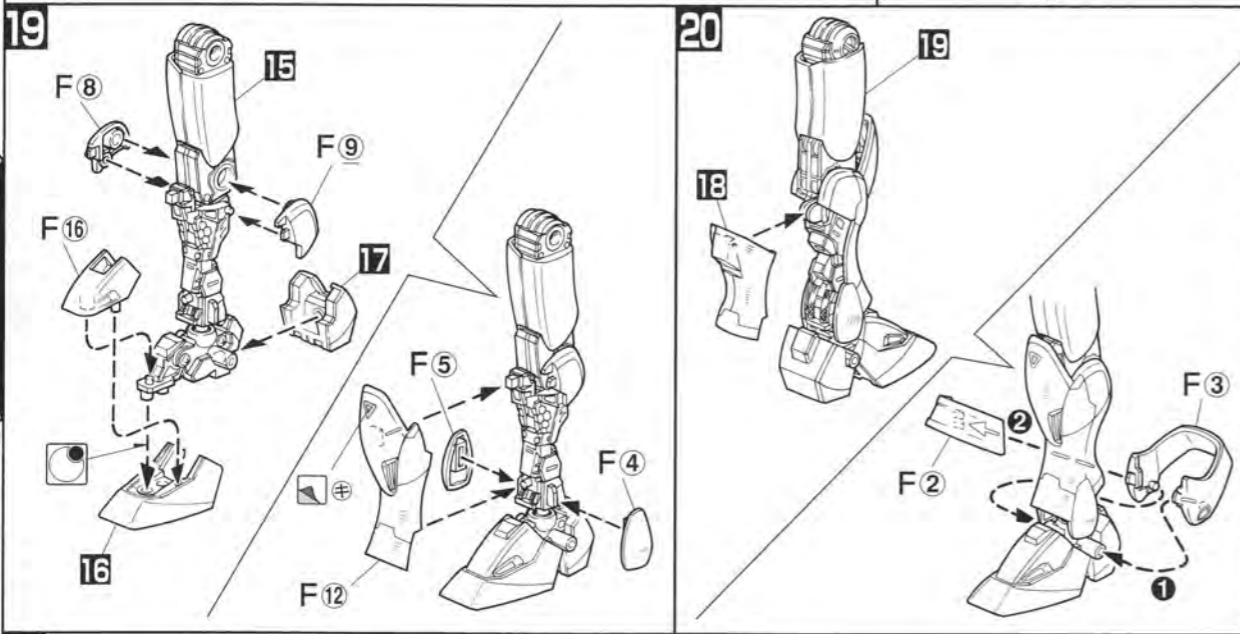
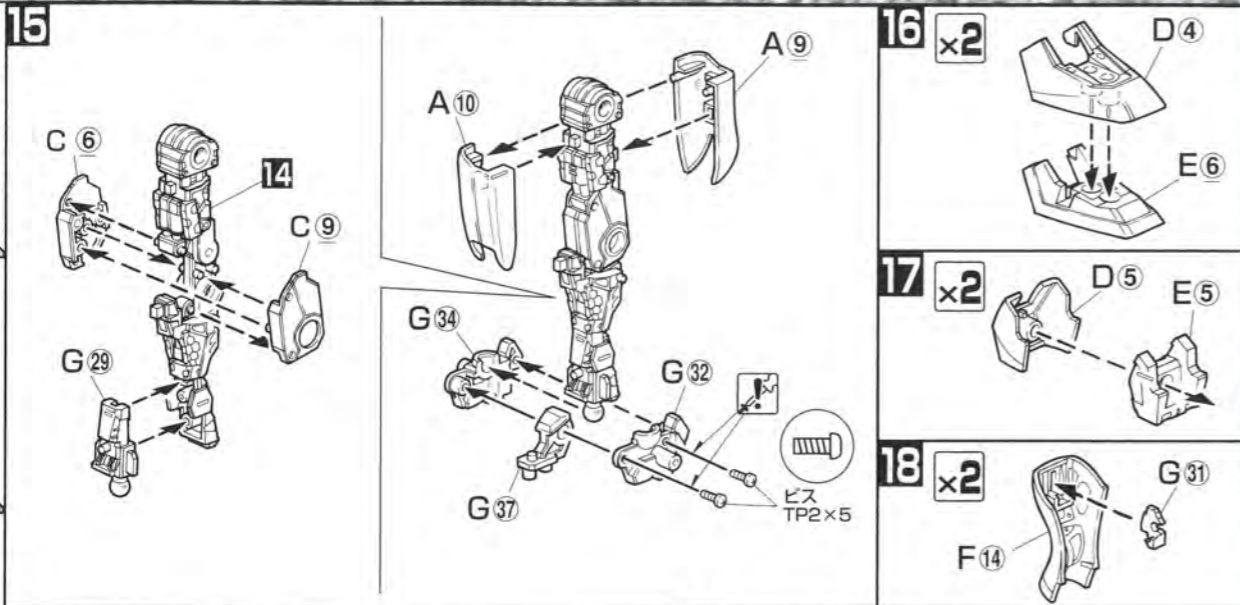
エネルギー性能が必要とされるため、あまり現実的な使用例とは言えない。

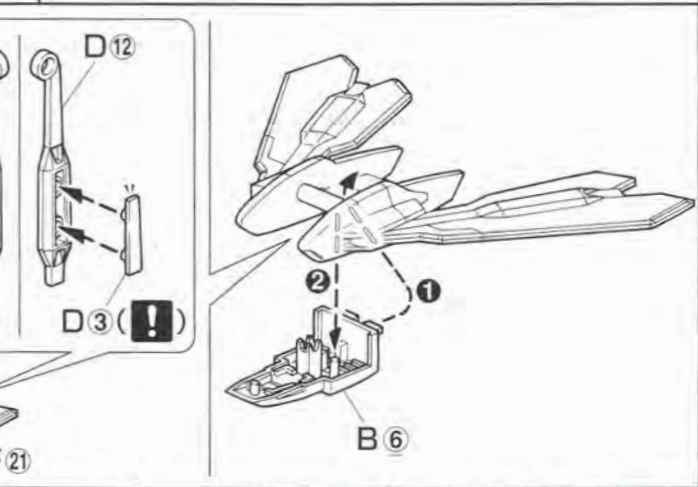
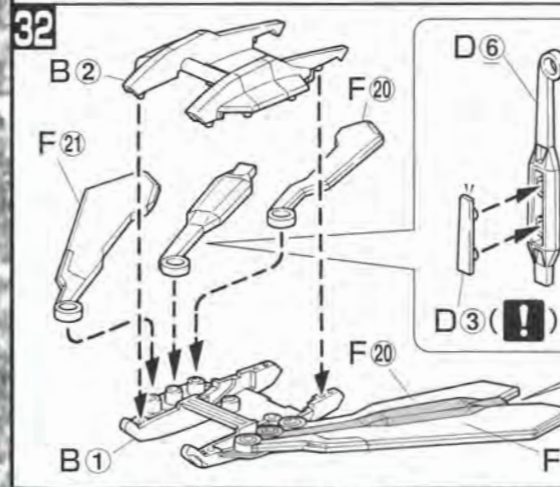
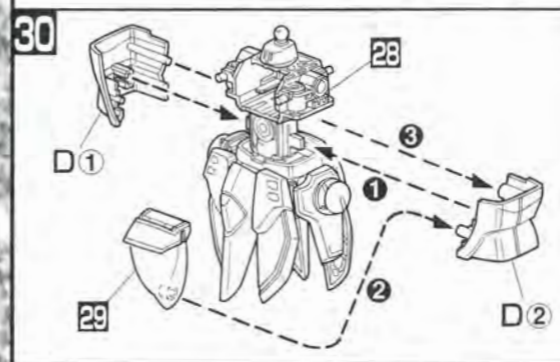
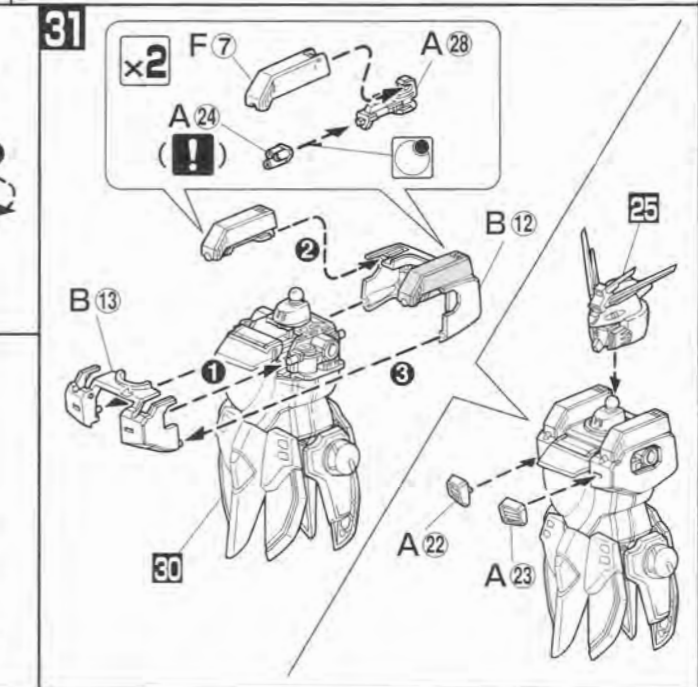
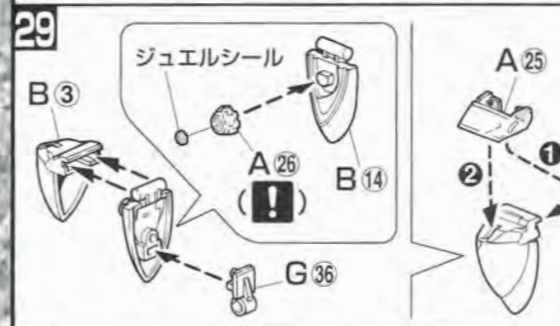
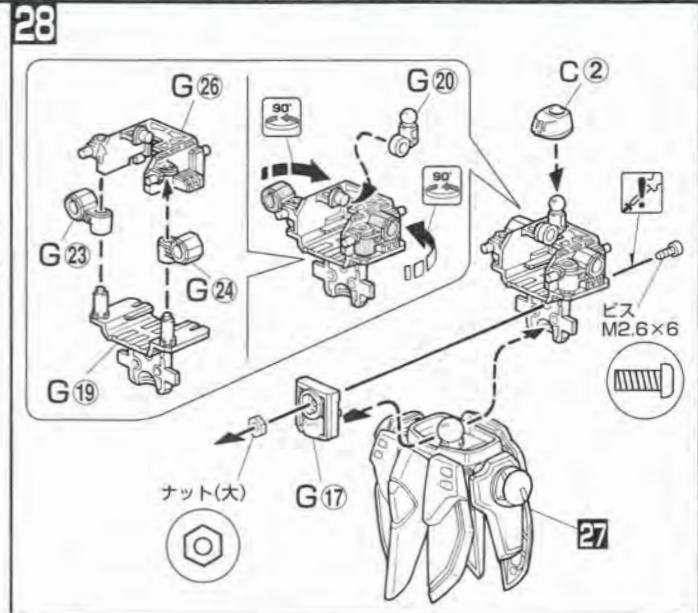
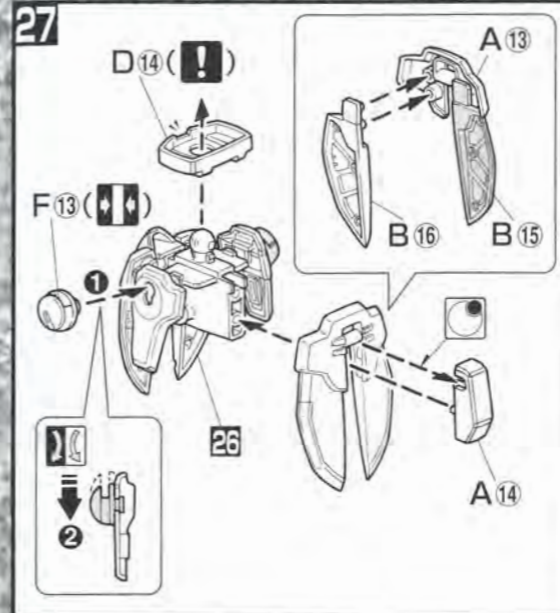
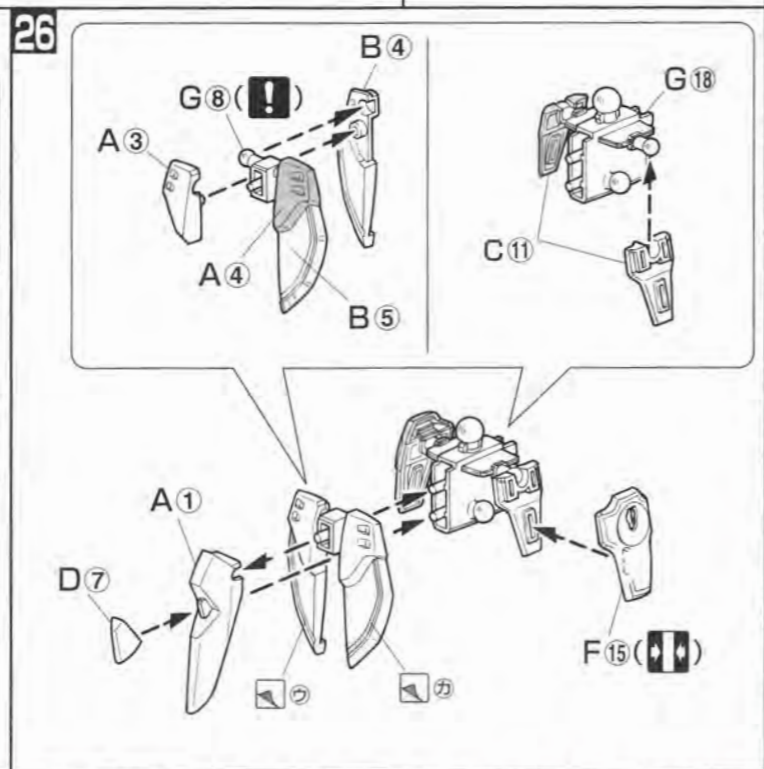
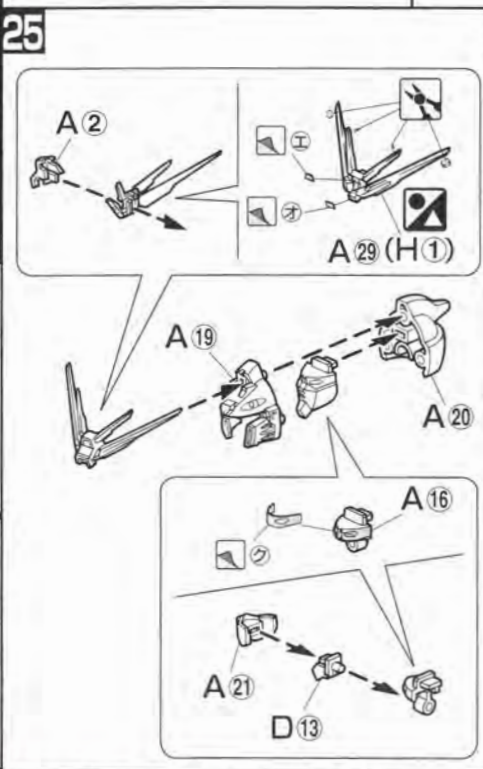
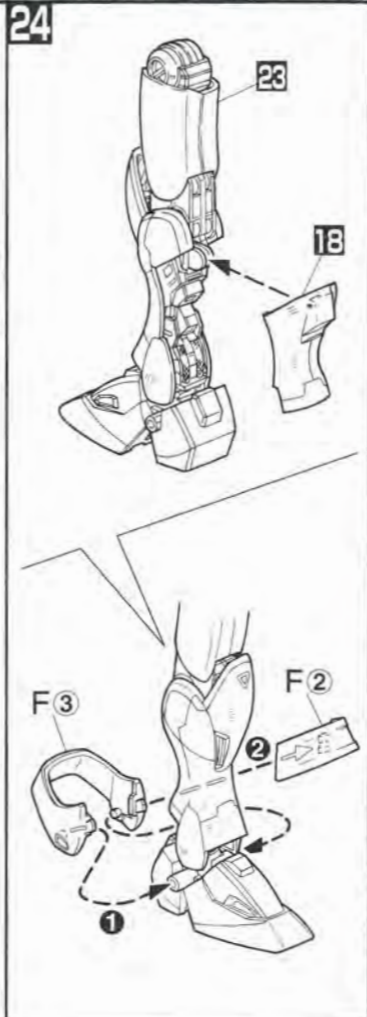
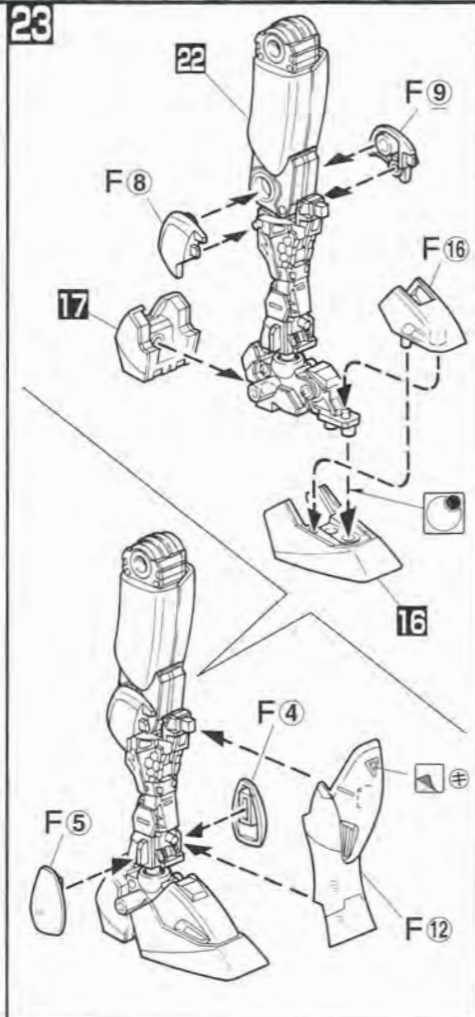
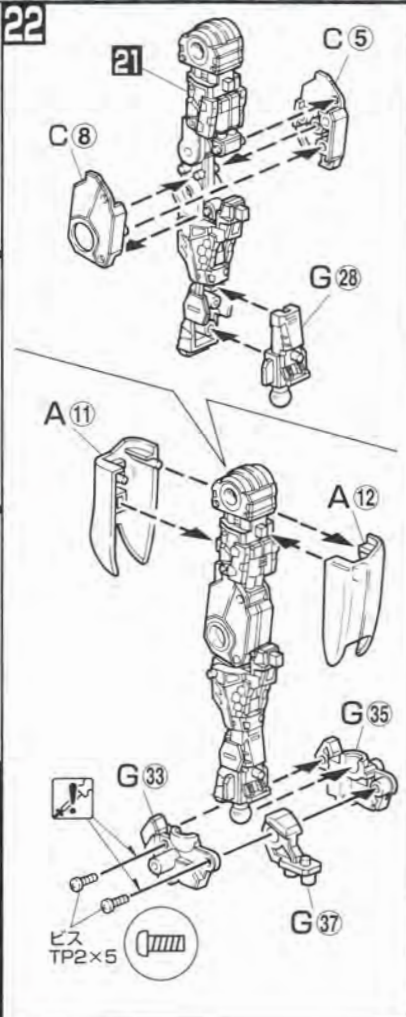
DOMON KASSHU

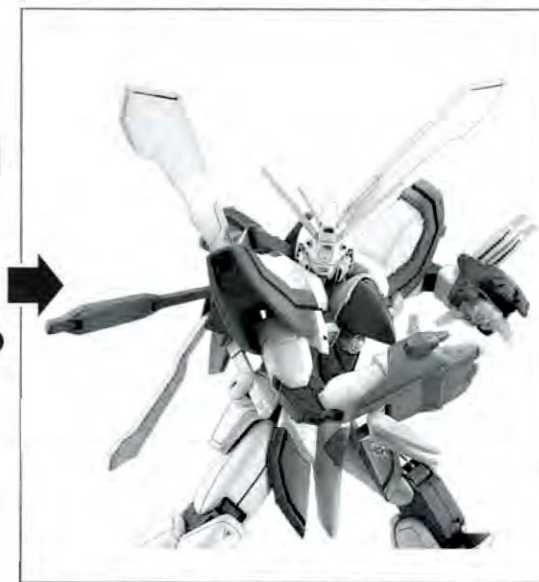
スペースコロニーネオジャパン出身の20歳。生年月日：F.C.39年7月24日。身長：180cm。体重：78kg。血液型：O型。性格：粗暴で猪突猛進型だが正義感は一歩強い。特技：武道全般。クルー：レイン・ミカムラ

コロニー格闘技王者であり、キング・オブ・ハートの称号を持つ格闘者。兄キョウジが起こした反乱事件のため、母は死に、父は冷凍刑とされてしまった。その父の救済と引き換えに、第13回ガンダムファイトにおけるネオジャパン代表のガンダムファイターとなる。また、兄キョウジとデビルガンダムの捜索も任務に加えられている。コロニー格闘技王者となる前は、幼少の頃からマスターアジアと東方不敗の内弟子として過ごし、覆食を供にして薫陶を受けた。流派東方不敗、唯一の後継者でもある。

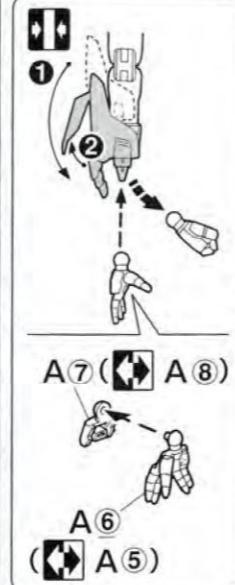
幾多の戦いを乗り越え、第13回ガンダムファイトを勝ち抜いたばかりか、デビルガンダムの出現と、それを利用しようとする陰謀を仲間らと共に打ち砕き、地球の危機を救った。



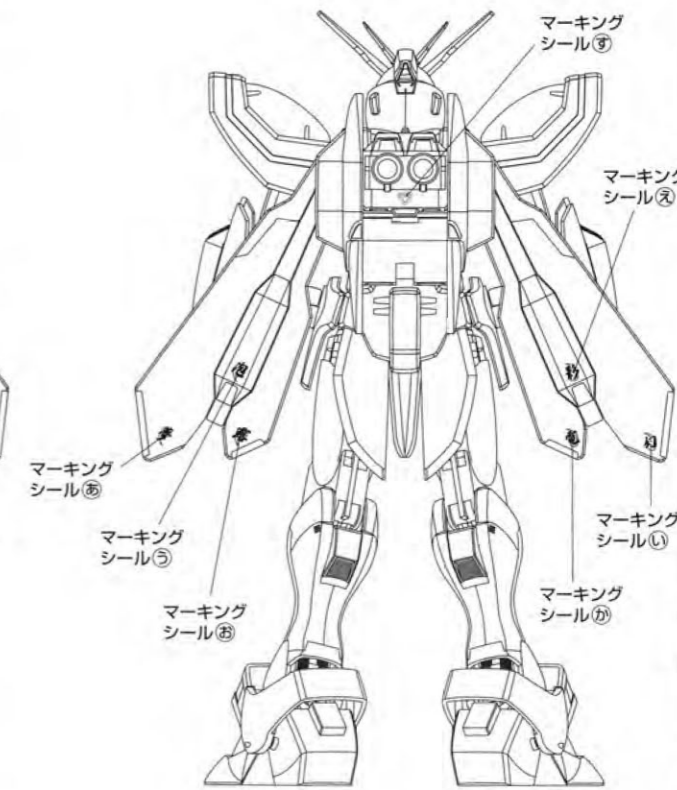
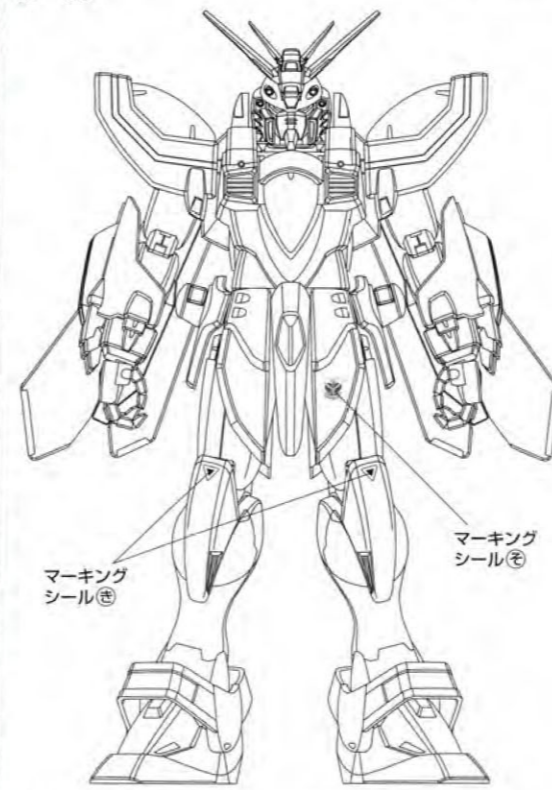




38



Seal
<シール> 下の図を見て、シールのはる位置を確認してください。

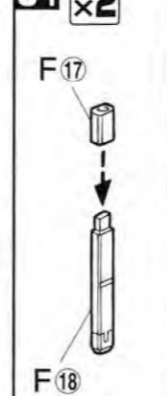


*余ったマーキングシールは好きな所にはってください。

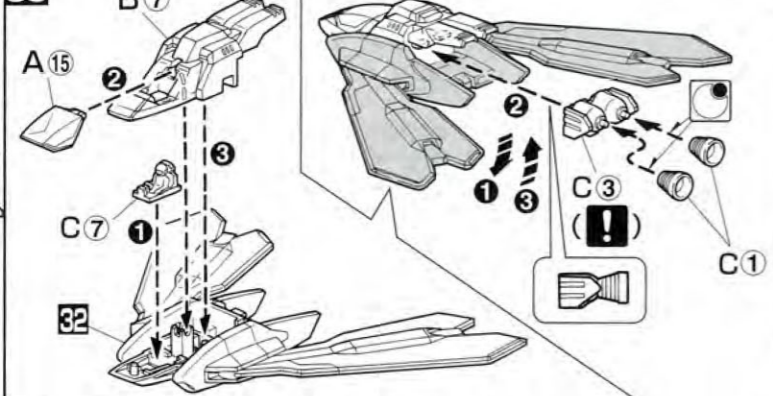
35



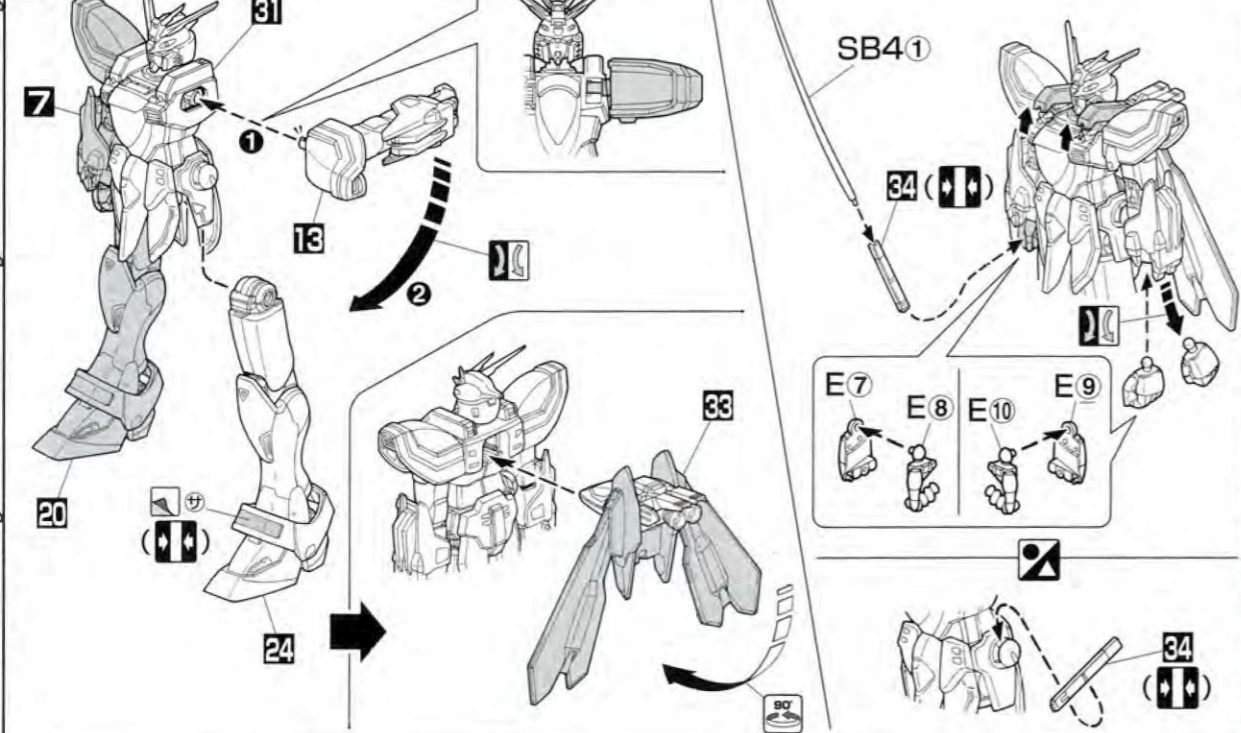
34



33



36



37

